

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	チャレンジびび			
○保護者評価実施期間	令和7年12月22日 ~ 令和8年1月15日			
○保護者評価有効回答数 (対象者数)	21名	(回答者数)	16名	
○従業者評価実施期間	令和8年1月14日 ~ 令和8年1月21日			
○従業者評価有効回答数 (対象者数)	6名	(回答者数)	6名	
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年1月30日			

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子ども一人ひとりに合わせた活動を提供し支援をしている。	一人ひとりのアセスメントを行い、それぞれに合う活動を提供している。子どもたちが無理なく進められるよう留意している。	今後も丁寧なアセスメントの上で、適した活動を提供していく。 活動内容SNSを活用して情報を収集し、取り入れて行く。
2	子ども達の良い面や得意なところを見つけて褒めることで、自己肯定感につなげていること。	日々の活動の中で、小さな「できた」を褒めるように心掛けている。	今後こどもたちの自己肯定感を高められるように、褒めることを続けていく。また、成長段階に応じて役割を持った活動を提供することで自信につなげていきたい。
3	保護者や併用している他事業所、園等と情報共有を密に行い課題と一緒に考えながら支援をしている。	保護者との信頼関係を築けるように、丁寧に話を聞いている。	保護者支援の専門性を高められるように、地域の関係機関と連携し、社会資源についての知識を深めていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士の交流の機会が少ないこと。	保護者会の計画や準備に時間がかかってしまった。	開催時期を年度初めに決定し、計画的に準備を進める。ワークショップや研修会の他に、茶話会など準備に時間がかかるない内容にすることで、複数回の開催を検討していく。
2	ペアレントトレーニングの取り組みが不十分だと感じている。	専門的なペアレントトレーニングを提供できる研修を受けられていない。	ペアレントメンター研修の受講を進めていく。
3	広い療育室の活用方法が不十分だと感じている。	プログラムによって机などの移動を行い、子ども達が活動をしやすいように工夫をしているが、衝立等で区切ることができていないため、子どもの注意力が散漫になってしまう。	衝立を購入する事で、個別のスペース、クールダウンのスペース、遊ぶスペース等目的に合った部屋の使い方ができる。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	児童発達支援チャレンジびび
------	---------------

公表日 令和8年 1月 31日

利用児童数

21名

回収数16名

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	16				広いスペースで沢山体を動かすことができています。	広いスペースを活かしたプログラムを開発していく。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	16				一人一人丁寧に見ていただけて、細かいところまで目が行き届いていつも嬉しいです。	加配体制を取り、一人ひとりの状況に応じた対応をしている。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	16				とても分かりやすく色分けなどして頂いた設備はバリアフリー化されている。絵カードやタイムタイマーなどの視覚支援を行っている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	16				いつも清潔に掃除されていて、汚れているところを見たことがありません。使ったものの整理等もとても良くされています。	感染症に対応した清掃を毎日行っている。使用しない物は療育室には置かないようにしている。
適切な支援の提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	16				一人一人の悩みや困り事、生活について相談したり、解決策を考えて頂き、いつも小さなことでも報告頂けて、自己肯定感に繋がっています。	一人ひとりの課題に対する専門的支援（個別支援）を行っている。今後も専門性を高めた支援の提供に努める。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	15	1			テレビの時間は出来るだけ減らしたい支援プログラムに相違などないです。	テレビの時間は、帰りの会終了後保護者のお迎えが来るまでの間のみ視聴している。支援内容は公表している。
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	16				こちらの要望や、困り事、伸ばして行きたいことをしっかりヒアリングをして頂いた上で個人指導計画を作成頂いています。	今後もご本人と保護者のニーズに沿って十分なアセスメントを行ったうえで、伸ばしたいことや課題に対応した計画を作成していく。
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	15	1			はい、毎回分かりやすく、支援計画を作成頂いています。	ガイドラインに示された支援内容から必要な項目を設定している。具体的に分かりやすい支援計画になるよう心掛けている。
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	15	1			こちらも、支援計画に沿った支援をして頂いています。	始業前に計画書を確認し、その日の支援内容に反映させている。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	16				毎回季節制作のものったり、体を動かしたり、外出したり、こどもが楽しめるプログラムになっていますし、沢山の行事等があり、それも毎回違った内容で楽しんでいます。	運動や制作活動、日常生活動作の練習などを組み合わせ活動が固定化されないよう工夫している。
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	15			1	児童館等での交流があります。	児童館や公園で交流する機会はある。また、今年度は近隣の保育園の園庭開放やイベントに参加した。
保護者への説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	16				利用前に適切な説明がありました。	契約時に書面を提示し読み合わせを行いながら説明をしている。
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	16				支援計画の更新毎に、しっかり説明頂いております。	支援計画の内容を説明し、確認をしていただいている。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	15	1			こちらも、保護者会などを通して、情報交換の場を設けて頂いています。	年に3回の活動参観を実施し、事業所での関わり方等をお伝えしている。ペアレントトレーニングは今後強化すべき課題としてペアレンタメント研修の受講を検討している。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	16				毎回の支援の際に、ご説明頂いたり、こちらから聞いたことに丁寧に説明頂いています。	連絡帳への記入と、引き渡し時に口頭で伝えている。必要に応じてご家族での様子の聞き取りをしている。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	16				こちらも定期的に相談や、サポート頂いています。	半年に一度の面談を実施している。その他にもご希望に応じて随時面談を実施し、課題に対する相談・助言を行っている。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	16				いつもとても丁寧に指導を頂き、私の気持ちも軽くなっています。何よりもこどもが楽しく過ごせているのが嬉しいですし、細かい成長や発語等まで見て頂き、通い始める前に比べて、はるかに成長していると感じています。沢山声掛けをしていただき、相談しやすいです。	その時々の状況や気持ち、行動を受け入れて対応するように努めている。

18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	14			2		保護者会や施設全体でイベントを開催し交流を深めている。今後も研修会やワークショップを兼ねた保護者会を定期的に開催していく。きょうだい支援は今後強化すべき課題として検討を進めていく。
----	--	----	--	--	---	--	--

	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	16					契約時に対応の体制を説明している。ご意見や相談の申し入れに対しては迅速に対応し、職員に共有している。
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	16					一人ひとりの特性や状況に応じて対応している。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	15	1				「ひび通信」を毎月発行するとともにホームページで活動の様子を伝えている。自己評価の結果は保護者に配布し、ホームページで公表している。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	16					個人情報保護規定に基づき適正に管理している。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	12			4		マニュアルを策定し、周知している。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	13			3		月に一度の避難訓練を実施している。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	16					安全計画を策定し、周知している。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	12			4	事故等は発生していないですが、そういう事が起きないようしっかり見て頂いています。	事故等が発生した場合は速やかに保護者に連絡を入れ、状況等の説明をしている。
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	16					今後も安心して通所していただける環境作りに努めている。
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	16					一人ひとりが楽しめるように、ニーズを重視した支援プログラムを提供していく。
	29	事業所の支援に満足していますか。	16					本人と保護者の気持ちに寄り添い、満足していただける支援を提供できるよう研鑽を積んでいく。

事業所における自己評価結果						
事業所名	児童発達支援チャレンジびび			公表日	令和8年 1月 31日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		活動内容に合わせて机の配置を変えている。		
	2 利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6		加配体制を取り、一人ひとりの状況に応じた支援をしている。		
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	1	設備はバリアフリー化されている。子どもたちが分かりやすいように絵カードやタイムマニアを使って視覚支援を行っている。	水道や蛇口の改善が必要だと感じる。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		療育後の清掃は除菌水を使用して適切に行っており。おもちゃや制作活動の道具などは使用時以外は倉庫にしまっている。		
	5 必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		部屋の隅をクールダウンするための場所をしている。また、移動できる衝立を購入したので個別の空間を作っている。		
業務改善	6 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6		全職員が参加するミーティングで目標設定と振り返りを行っている。		
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		年に一度アンケート調査を実施し、その結果を踏まえて業務改善につなげている。		
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	1	日々の振り返りやミーティングで職員の意見を出して業務改善につなげている。		
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		6	第三者評価は現在実施していない。今後検討していく。		
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		外部研修の情報を共有し参加者を募っている。受講してきた職員がミーティングで伝達研修を行っている。その他、法人内研修も実施されている。		
適切な支援の提	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		支援プログラムを作成し、公表している。		
	12 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6		アセスメントを適切に行い、ご本人・保護者のニーズや課題を分析した上で計画を作成している。		
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		サービス担当者会議を開催し、ご本人にとって最善の計画になるよう検討している。		
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		計画は職員間で共有し、支援前に確認を行い療育プログラムに反映させている。		
	15 子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		日々の行動観察で発達状況を確認するとともに、アセスメントツールを使用している。		
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		児童発達支援ガイドラインのねらいや支援内容を踏まえて、サービス計画を作成している。具体的で分かりやすい支援内容を設定している。		
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		日々の活動状況を共有している。支援開始前の打ち合わせでプログラムを決めている。		

供 給	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		その日の利用児に合わせてプログラムを変えている。	常に情報収集を行い、幅広い活動ができるよう努める。
	19 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6		個別活動と集団活動を組み合わせて、ご本人が楽しみながら充実した時間を過ごせるように計画を作成している。	
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		支援開始前に打ち合わせを行い、個々の課題とプログラムの流れを確認している。	送迎の出発時間が早い場合は全員で打ち合わせができない日があるので、送迎の組み合わせを工夫することが必要。
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		毎日振り返りを行い、気が付いた点などの共有をしている。	職員の支援方法の良い点や改善点についても自由に発言ができる環境を作ることが必要。
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		保護者への連絡帳を記入するとともに、業務日誌や個人の記録を残し、支援の検証や改善につなげている。	
	23 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		半年に一度以上モニタリングを行い、見直しの必要性を判断している。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	24 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		子どもの状況を把握した責任者が参加している。	
	25 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		保健センターや子ども家庭センターとの連携はできている。保育園・幼稚園・他事業所との連携を積極的に行い、支援の統一を図っている。	
	26 併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		併行利用や移行がスムーズに行えるように、保護者と相談をしながら支援を行っている。	
	27 就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		就学児童に対しての情報を共有する予定。	
	(28~30は、センターのみ回答)				
	28 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29 質の向上を図るために、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30 (自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	(31は、事業所のみ回答)	6		児童発達支援センターと連携をしている。	
	31 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	6		地域の児童館や近隣の園庭開放に参加させていただき、他の子どもと活動する機会を設けている。	開始時間が遅いので交流が難しい。
	33 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		連絡帳でのやりとりや、送迎時などに情報交換を行っている。	
	34 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	1	年に3回活動参観を実施している。また、就学相談など家族で参加できる研修の機会を設けた。その中で関わり方のアドバイスや提案をしている。	ペアレントトレーニング研修を実施できるよう職員のペアレントメント研修の受講を検討している。八王子市が開催している保護者向けの研修の情報提供も今後していく。
	35 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		契約時に重要説明書の読み合わせをしながら丁寧に説明をしている。	
	36 児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		計画の作成に先立って、保護者面談を実施している。	

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6	計画を示しながら支援内容を説明し、確認していただいている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6	半年に一度の面談の他にも、日々相談に応じ、助言を行っている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6	ワークショップと懇談会を行い保護者同士の交流ができた。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6	苦情対応の体制は、整備して保護者に周知している。苦情があった場合は迅速に対応している。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6	「ひび通信」を毎月発行し、活動内容や行事予定を発信している。ホームページにも活動の様子を載せている。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6	個人情報保護規定に基づき適正に管理している。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6	説明は分かりやすい言葉で、ゆっくり丁寧に伝えるように心掛けている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6	11月に開催した作品展には地域の方を招いた。外掲示には個人が特定できないように加工した上で「ひび通信」を掲示して活動の内容を知らせている。	
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	マニュアルを策定し、周知している。訓練も実施している。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6	BCPを策定し、月に一度の訓練を実施している。	
非常時等の対応	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6	契約時に聞き取りを行い、服薬状況やてんかん発作時の対応等について確認している。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	現在該当している利用児はないが、毎年アレルギー調査を行っており、該当児には医師の指示書の提出を求めている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	安全計画を策定し、周知している。 必要な研修や訓練も実施している。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6	安全計画を策定し、保護者への周知を行った。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6	少しでも危険と感じた事象はヒヤリハットを記入し、再発防止対策について職員で検討・共有している。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6	虐待防止委員会を設置し、年に3回の研修の実施と、虐待防止チェックリストの記入を行っている。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6	現在該当する利用児はないが、「身体拘束適正化のための指針」を策定し、研修を実施している。身体拘束が必要なケースが発生した場合は、事前に説明をし了解を得て記録に記載する。	